

# K.I.T.虎ノ門大学院 シラバス 2012 - 知的創造システム専攻

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先:虎ノ門事務室[メール or 電話])

※ 授業中の食事は控えてください。また、携帯電話をマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名	区分/コード	単位数	VOD 閲覧	開講期
コンテンツ法務特論 I	主要科目 8695	1	学内 のみ	3期 (後学期)
Advanced Contents Legal practice I				
担当教員名	Eメールアドレス		連絡方法/オフィスアワー	
田中康之 仲村隆藏	-		メールアポイントにて	

## 関連している科目(履修推奨科目)

コンテンツ法務特論 II	インターネット法務特論	知的財産評価特論
著作権法特論/応用特論/政策特論	商標法令特論1・2	民法特論 I・II

## 授業の概要と到達目標

### 授業の主題と概要

コンテンツ流通はデジタル化により促進され、コンテンツは多様なウインドウ(媒体)で視聴されている。一方で、コンテンツは「権利の束」であり、不法な流通が後を絶たないのも現実である。経済的価値を維持するには、創作の時点であるアーリーステージから、初回利用、二次の利用まで法的保護を受けながら流通するようにマネジメントする必要がある。特論 I では、各業界の第一線で活躍されるゲストスピーカーからのレポートを通じてコンテンツのインフラについて学ぶ。

1. 講義の形式としては、社会人大学院講座であることから、実学演習を中心にソクラテスマソッド方式で進める。  
受講生がコンテンツ事業に直接関わってなくても、ビジネスモデルを理解できるように基本的な知識を学び、受講生の理解度に合った課題に取り組み、演習を通じて幅広い知識が修得できるように講義を進める。
2. コンテンツの対象分類としては、言語、音楽、映像の著作物を予定。
3. 講義期間中に、受講生が選択するコンテンツウインドウについての事前調査発表を課題とする。
4. 本講義のまとめとして「コンテンツマネジメントの着眼点」をレポート課題とする。

### 到達(修得)目標

コンテンツ産業における多様なウインドウの基礎知識修得と、第一線で活躍されるゲストスピーカーと講師とのチームティーチングを通じて、受講者自身が現状の課題を見つけ、その解法を考えるコンテンツプロデューサーの基礎知識を到達目標とする。

### 受講対象者

コンテンツ事業に興味があり、現在または、将来関わる方、および DCM 技術によりデジタル社会基盤の構築を研究テーマとする院生。著作権法や商標法関連科目を受講していることが望ましい。特に、専修科目「杉光ゼミ・市村ゼミ」所属の院生の履修を推奨する。

## 履修上の注意事項やアドバイス

※「コンテンツ法務特論 II」を連続履修することが望ましい。また、著作権法、商標法の履修をしていない受講生は、事前講習を準備している。BA 専攻の「メディア&エンタテインメント」科目の内容と重複を避けるために、本講義ではコンテンツプラットフォームのマネジメント能力を持つコンテンツプロデューサーの育成と研究論文支援のために学術的なアプローチを行う。よって、コンテンツ分野を研究する院生は多様な視点を持つために関連講義を並行して受講することを推奨する。

本講義は、1講座2コマ連続で休むと2回欠席となるので要注意。

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 本科目は、2コマ連続クラス(180分×4日間、合計8コマ)で構成する。開講日程に注意すること。

## コンピテンシ修得目標

知識領域(Y軸)	ヒューマンパワー(Z軸)		思考プロセス(X軸)	
Y 1: 基盤法令・テクノロジー	Z 1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y 2: 応用法令・実務・テクノロジー	Z 2: 独創力	○	X2: 構想	○
Y 3: グローバル法令・実務	Z 3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y 4: マネジメント	Z 4: プレゼンテーション力	○	X4: 設計・開発	○
Y 5: 戦略立案	Z 5: 変革推進力	○	X5: 変革	
Y 6: 標準化	Z 6: コミュニケーション力		X6: 導入・運用	
-	Z 7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	○
-	Z 8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	○

プラクティカム		
イベント/ケース	教育技法	マテリアル/ツール
1 <b>【演習1】CE[具体的行動]</b> 講義についての感想ミニレポート(講義の要旨・感想) ⇒プラクティカムシートの「ログ」に相当	講義終了後提出する	教員・ゲストスピーカー講義
2 <b>【演習2】アクションラーニング</b> ウインドウ調査レポートの作成 ⇒エビデンスの「プラクティカムシート」に相当	講義開始時に発表する	教員・ゲストスピーカー講義 および、自己調査・研究
3 <b>【演習3】アクションラーニング</b> コンテンツマネジメントの「着眼点」をレポート提出 ⇒エビデンスの「ベストプラクティカムシート」に相当	指定日までにメールにて提出する	学習内容および自己調査・ 研究資料

評価の方法		
(総合評価項目と割合)		評価の要点
出席・プロセス(発言)【演習1】	20%	1. 【演習1】コンテンツマネジメントに必要な基礎知識を修得しているかを 出席・学習プロセス・感想レポートで評価する。 2. 【演習2】講義テーマの事前調査結果を評価する。 3. 【演習3】「コンテンツマネジメントの着眼点」を評価する。
感想ミニレポート(理解)【演習1】	20%	
調査・研究個人発表【演習2】	30%	
研究レポート提出【演習3】	30%	
合計	100%	
テキスト、参考図書 など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください ※		
テキスト (購入が必要)	特に指定しない	オリジナル資料を使用する
参考図書 (購入は任意 ・講師推奨)	「コンテンツビジネスマネジメント Ver.2.0」トーマツ(日本経済新聞社) 「コンテンツ産業論 文化創造の経済・法・マネジメント」川島伸子(ミネ ルバ書房) 「デジタルコンテンツ白書(2011)」デジタルコンテンツ協会	講義では使用しないが、受講事前 準備として理解しておくことが望ましい
参考URL		
<b>【コンテンツプロデューサー育成カリキュラム】</b> コンテンツ産業の要となるプロデューサー人材の重要性に鑑み、平成15年度経済産業省委託事業として、国際的ビジネス プロデューサー養成のために必要とされる知識・ノウハウを体系化した、「プロデューサーカリキュラム」。 <a href="http://www.meti.go.jp/policy/media_contents/index.html">http://www.meti.go.jp/policy/media_contents/index.html</a>		

ゲスト講師は(予定)である為、変更する場合があります。2コマ(90分+90分)連続の4日間構成なので、開講日程に注意すること。

週	学習内容		事前準備	担当者	時間
1	<b>&lt;オリエンテーション&gt;</b> ・体講義進行と【演習1】【演習2】【演習3】の説明 ・受講生の「コンテンツマネジメント」との関わりについて <b>コンテンツマネジメント &lt;コンテンツの創成&gt;</b> ・コンテンツと関わりを持つための概要を知る		特になし	田中 仲村	180 分
9/10	イベント	ゲスト予定: 竹内宏彰氏(アニメーションプロデューサー・KIT 客員教授)【演習1】			
2	<b>言語の著作物 &lt;電子書籍のビジネスモデル&gt;【演習1】</b> ・コンテンツの源流となる言語の著作物のインフラとビジネスモデルを理解する		事前リサーチ【演習2】	田中 仲村	180 分
10/1	イベント	ゲスト予定: 鈴木宣幸氏(講談社 広報室長)【演習1・2】			
3	<b>音楽の著作物 &lt;音楽配信のビジネスモデル&gt;【演習1】</b> ・クラウドコンピューティングによる音楽等の配信サービスを理解する		事前リサーチ【演習2】	田中 仲村	180 分
10/15	イベント	ゲスト予定: 川上恵美子氏(ニフティ 法務部担当課長)【演習1・2】			
4	<b>映像の著作物 &lt;ペイテレビのビジネスモデル&gt;&lt;まとめ講義I&gt;</b> ・映像コンテンツの権利処理とペイテレビのビジネスモデルを理解する		事前リサーチ【演習2】	田中 仲村	180 分
10/29	イベント	ゲスト予定: 高澤宏昌氏(TBS テレビ TBS オンデマンド事業戦略統括)【演習1・2】			

学習内容やスケジュール等、状況に応じて、一部変更・改善が生じる場合もあります。  
講義収録は、特別講師を招く場合を含め、事情によっては収録できない場合もあります。  
予めご了承ください。

専任教授 確認記録欄
確認者氏名: 加藤、杉光